



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月3日

上場会社名 シスメックス株式会社
コード番号 6869 URL <http://www.sysmex.co.jp>

上場取引所 東大

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 家次 恒
問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部長 (氏名) 釜尾 幸俊

TEL 078-265-0500

四半期報告書提出予定日 平成24年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	96,913	8.0	13,654	1.5	13,226	2.6	8,584	6.9
23年3月期第3四半期	89,712	7.9	13,449	20.8	12,894	16.4	8,031	19.1

(注)包括利益 24年3月期第3四半期 4,900百万円 (3.7%) 23年3月期第3四半期 4,723百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	83.55	83.39
23年3月期第3四半期	78.25	78.10

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第3四半期	130,945	96,099	72.9	928.58
23年3月期	130,059	94,232	71.9	910.68

(参考)自己資本 24年3月期第3四半期 95,433百万円 23年3月期 93,533百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	28.00	—	32.00	60.00
24年3月期	—	15.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	134,000	7.5	18,500	1.2	18,000	0.1	11,500	0.8	111.92

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ー社 (社名) 、 除外 ー社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期3Q	102,991,216 株	23年3月期	102,923,616 株
24年3月期3Q	217,716 株	23年3月期	216,616 株
24年3月期3Q	102,747,164 株	23年3月期3Q	102,634,498 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期のレビューの手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業務見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信(添付資料)4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予測に関する定性的情報」をご覧ください。
2. 平成23年3月31日現在の株主に対し平成23年4月1日付をもって、普通株式1株につき2株の割合で株式分割をしております。なお、「平成24年3月期の連結業績予想」の1株当たり当期純利益は、当該株式分割の影響を考慮しております。
3. 決算補足資料(和英)は平成24年2月10日(金)に、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報等	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響によるサプライチェーンの混乱と電力供給不足を受けた経済活動の停滞から回復の兆しが見られたものの、タイ洪水の影響、資源価格の高騰、歴史的な円高進行など、先行き不透明な状況となっています。欧米では欧州債務危機、中東・アフリカ情勢の動向、ガソリン価格高騰による消費者心理の悪化などにより、景況感が悪化するなど今後の世界経済の動向は楽観できない状況にあります。一方、新興国では、中国における景気減速感、消費者物価の上昇など不安定な要素があるものの、総じて堅調な経済成長が継続しています。

医療面におきましては、国内では、公立病院改革プラン及び診療報酬改定の効果により医療機関の収益は改善に転じています。一方、欧米先進国では医療費抑制と制度改革に取り組んでおり、米国では、無保険者の解消を目指す医療保険改革法案に関する議論が継続されています。また、中国では、都市・農村での医療サービスの格差解消を目指し、医療保険制度を含む医療制度改革が推進されています。

このような状況の下、当社グループにおきましては、主力の血球計数検査分野における最上位モデルの新製品として、多項目自動血球分析装置XNシリーズの販売を開始しました。この製品は全地域を販売対象としており、各国の許認可取得後に順次発売してまいります。また、前期に完全子会社化した台湾の現地法人において、平成23年10月より現地代理店と連携した販売・サービス活動を開始いたしました。

<参考>地域別売上高

	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		前年同四半期比 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
国内	26,666	29.7	27,249	28.1	102.2
米州	19,231	21.4	20,925	21.6	108.8
欧州	25,767	28.7	27,694	28.6	107.5
中国	11,363	12.7	14,376	14.8	126.5
アジア・パシフィック	6,683	7.5	6,666	6.9	99.7
海外計	63,046	70.3	69,663	71.9	110.5
合計	89,712	100.0	96,913	100.0	108.0

国内販売につきましては、医療制度改革に伴う経営改善により大規模医療機関の設備投資は底堅く推移しており、ソリューション提案を引き続き推進した結果、大型案件の受注が好調に推移し、国内売上高は27,249百万円（前年同期比2.2%増）となりました。

海外販売につきましては、販売・サービス体制の強化、ソリューション提案を進めてまいりました結果、検体検査機器及び検体検査試薬の売上が伸長し、各国現地通貨ベースでは概ね順調に推移しました。その結果、大幅な円高の影響を補い、当社グループの海外売上高は69,663百万円（前年同期比10.5%増）、構成比71.9%（前年同期比1.6ポイント増）となりました。

利益面につきましては、対米ドルでの大幅な円高による為替の影響等があったものの、前年同期を上回りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は96,913百万円（前年同期比8.0%増）、営業利益は13,654百万円（前年同期比1.5%増）、経常利益は13,226百万円（前年同期比2.6%増）、四半期純利益は8,584百万円（前年同期比6.9%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 日本

ソリューション提案を引き続き推進したことによる大型案件の受注などにより、主力の血球計数検査分野を中心に販売が堅調に推移し、売上高は30,029百万円（前年同期比2.9%増）となりました。

利益面につきましては、円高の影響はありましたが、国内販売が堅調に推移したこと、また、グループ間取引価格の見直しを含むグループへの輸出売上への伸長による売上総利益の増加等により、営業利益は6,406百万円（前年同期比20.5%増）となりました。

② 米州

米国では、直接販売・サービス体制の強化に注力し、顧客の要望を満たすソリューション提案が浸透した結果、IHN（統合医療ネットワーク）及びVISN（退役軍人病院ネットワーク）向け販売が堅調に推移しました。また、中南米においても入札案件を中心に販売が好調に推移し、円高の影響による減収要因はあったものの、売上高は19,736百万円（前年同期比7.5%増）となりました。

利益面につきましては、円高による影響に加え、グループ間取引価格の見直しによる原価増と販売・サービス活動の強化に伴う販売費及び一般管理費の増加を増収効果により補い、営業利益は2,260百万円（前年同期比2.8%増）となりました。

③ 欧州

直接販売・サービス活動の充実に加え、ソリューション提案によって血球計数検査分野を中心に販売が堅調に推移し、売上高は27,519百万円（前年同期比7.1%増）となりました。

利益面につきましては、増収効果により、販売・サービス体制の充実に伴う販売費及び一般管理費の増加を補い、営業利益は3,897百万円（前年同期比9.4%増）となりました。

④ 中国

血球計数検査分野、凝固検査分野、尿検査分野において検体検査機器並びに検体検査試薬の売上の増加に加え、生化学分野の機器販売が大幅に伸長し、売上高は14,376百万円（前年同期比26.5%増）となりました。

利益面につきましては、グループ間取引価格の見直しによる原価増と円高による影響により、営業利益は1,950百万円（前年同期比10.4%減）となりました。

⑤ アジア・パシフィック

インドにおいて血球計数検査分野を中心に売上が大幅に伸長しました。前年同期は、大型案件の受注等により一時的に売上が高水準であったことも影響し、売上高は5,250百万円（前年同期比3.1%増）と小幅な伸びとなりました。

利益面につきましては、グループ間取引価格の見直しによる原価増、販売・サービス体制整備による販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は131百万円（前年同期比78.1%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比べて886百万円増加し、130,945百万円となりました。この主な要因は、商品及び製品が3,010百万円増加しましたが、投資その他の資産が2,425百万円減少したこと等によるものであります。

一方、負債合計は、前連結会計年度末と比べて981百万円減少し、34,846百万円となりました。この主な要因は、賞与引当金が1,169百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて1,867百万円増加し、96,099百万円となりました。この主な要因は、利益剰余金が5,399百万円増加しましたが、為替換算調整勘定が3,652百万円減少したこと等によるものであります。また、自己資本比率は、前連結会計年度末の71.9%から1.0ポイント増加して72.9%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末より1,124百万円減少し、17,791百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動の結果得られた資金は、9,955百万円（前年同期比1,043百万円減）となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純利益が13,183百万円（前年同期比542百万円増）、減価償却費が5,260百万円（前年同期比184百万円増）となったものの、たな卸資産の増加額が4,403百万円（前年同期比2,666百万円増）となったこと、法人税等の支払額が5,644百万円（前年同期比893百万円増）となったこと等によるものであります。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動の結果使用した資金は、7,754百万円（前年同期比1,599百万円増）となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得による支出が4,777百万円（前年同期比796百万円増）となったこと及び事業譲受による支出が1,900百万円あったこと等によるものであります。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動の結果使用した資金は、2,701百万円（前年同期比465百万円減）となりました。この主な要因は、配当金の支払額が3,184百万円（前年同期比158百万円増）となったこと、短期借入金の純増加額が807百万円（前年同期比363百万円増）となったこと、その他のうちリース債務の返済による支出が474百万円（前年同期比357百万円減）となったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期通期連結業績につきましては、平成23年11月7日に公表いたしました平成24年3月期通期連結業績予想数値に変更はありません。

なお、業績予想は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(1株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日）及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第9号 平成22年6月30日）を適用しております。

第1四半期連結会計期間において株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

これらの会計基準等を適用しなかった場合の、前第3四半期連結累計期間の1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、以下のとおりであります。

1株当たり四半期純利益	156円51銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	156円19銭

3. 四半期連結財務諸表等
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,950	17,326
受取手形及び売掛金	32,063	31,504
有価証券	178	684
商品及び製品	14,329	17,340
仕掛品	1,733	1,699
原材料及び貯蔵品	3,748	4,036
その他	9,299	9,695
貸倒引当金	△370	△350
流動資産合計	79,931	81,935
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	15,232	15,459
その他（純額）	20,999	21,741
有形固定資産合計	36,231	37,201
無形固定資産		
のれん	1,830	2,390
その他	4,816	4,594
無形固定資産合計	6,646	6,985
投資その他の資産	7,250	4,824
固定資産合計	50,128	49,010
資産合計	130,059	130,945
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,574	12,232
短期借入金	310	1,002
未払法人税等	2,728	1,612
賞与引当金	3,277	2,107
役員賞与引当金	207	184
製品保証引当金	128	110
その他	12,764	13,322
流動負債合計	30,992	30,573
固定負債		
長期借入金	11	5
退職給付引当金	751	1,116
役員退職慰労引当金	160	160
その他	3,910	2,990
固定負債合計	4,834	4,272
負債合計	35,827	34,846

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,041	9,136
資本剰余金	13,981	14,076
利益剰余金	74,662	80,061
自己株式	△252	△255
株主資本合計	97,433	103,020
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	185	135
繰延ヘッジ損益	△13	1
為替換算調整勘定	△4,071	△7,723
その他の包括利益累計額合計	△3,899	△7,586
新株予約権	600	564
少数株主持分	98	102
純資産合計	94,232	96,099
負債純資産合計	130,059	130,945

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	89,712	96,913
売上原価	31,975	35,782
売上総利益	57,737	61,130
販売費及び一般管理費	44,287	47,475
営業利益	13,449	13,654
営業外収益		
受取利息	89	105
受取配当金	48	48
投資不動産収入	295	211
業務提携契約一時金	214	—
その他	254	210
営業外収益合計	902	576
営業外費用		
支払利息	78	76
持分法による投資損失	45	45
投資不動産維持費	112	49
為替差損	1,033	751
その他	187	80
営業外費用合計	1,457	1,004
経常利益	12,894	13,226
特別利益		
固定資産売却益	4	12
貸倒引当金戻入額	12	—
その他	3	3
特別利益合計	20	16
特別損失		
投資有価証券評価損	38	—
固定資産除売却損	47	49
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	187	—
その他	0	9
特別損失合計	273	58
税金等調整前四半期純利益	12,640	13,183
法人税、住民税及び事業税	4,643	4,780
法人税等調整額	△48	△194
法人税等合計	4,594	4,586
少数株主損益調整前四半期純利益	8,046	8,597
少数株主利益	15	13
四半期純利益	8,031	8,584

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	8,046	8,597
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△107	△49
繰延ヘッジ損益	31	15
為替換算調整勘定	△3,247	△3,661
その他の包括利益合計	△3,322	△3,696
四半期包括利益	4,723	4,900
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,711	4,897
少数株主に係る四半期包括利益	12	3

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	12,640	13,183
減価償却費	5,076	5,260
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	187	—
売上債権の増減額(△は増加)	△897	△1,426
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,737	△4,403
仕入債務の増減額(△は減少)	701	834
その他	△262	2,050
小計	15,709	15,499
利息及び配当金の受取額	111	139
利息の支払額	△70	△39
法人税等の支払額	△4,750	△5,644
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,999	9,955
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,981	△4,777
無形固定資産の取得による支出	△1,141	△1,172
事業譲受による支出	—	△1,900
その他	△1,032	96
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,154	△7,754
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	443	807
長期借入金の返済による支出	△7	△4
配当金の支払額	△3,026	△3,184
その他	△577	△319
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,167	△2,701
現金及び現金同等物に係る換算差額	△997	△623
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	679	△1,124
現金及び現金同等物の期首残高	13,812	18,915
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,491	17,791

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	日本	米州	欧州	中国	アジア・パ シフィック	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	29,188	18,364	25,704	11,363	5,092	89,712	—	89,712
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	25,787	1	196	4	134	26,124	△26,124	—
計	54,975	18,366	25,900	11,368	5,226	115,836	△26,124	89,712
セグメント利益	5,316	2,198	3,564	2,176	602	13,858	△408	13,449

(注) 1. セグメント利益の調整額△408百万円には、セグメント間取引消去35百万円、棚卸資産の調整額△599百万円、固定資産の調整額155百万円などが含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	日本	米州	欧州	中国	アジア・パ シフィック	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	30,029	19,736	27,519	14,376	5,250	96,913	—	96,913
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	29,743	1	338	4	94	30,182	△30,182	—
計	59,772	19,738	27,858	14,380	5,345	127,095	△30,182	96,913
セグメント利益	6,406	2,260	3,897	1,950	131	14,646	△992	13,654

(注) 1. セグメント利益の調整額△992百万円には、セグメント間取引消去64百万円、棚卸資産の調整額△1,109百万円、固定資産の調整額52百万円などが含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「日本」セグメントにおいて、平成23年4月1日付けで片倉工業株式会社の生物科学研究所とカイコを用いて診断薬の原料となるタンパク質を生産する事業を譲り受けました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては1,405百万円であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。